

小学校の指導改善プラン（学校用） 富士見小学校

達成度調査等及び児童の学習状況から見た成果と課題 ○成果 ▲課題

	第4学年	第5学年	第6学年
国語	○教科全体の達成率が91.3%であり、内容が十分に定着している。 ▲「書くこと」の領域では、児童間の理解度の差が大きく、一部の児童に課題がある。	○基礎的な内容は達成率が90%を超え、内容が定着している。 ▲「書くこと」の領域、「漢字の書き」の達成率が低く、児童間の理解度の差も大きい。	○基礎・応用共に正答率は80%を超え、内容が定着している。 ▲応用「書くこと」「漢字の書き」の領域の達成率が低く、課題が見られる児童が多い。
社会	○教科全体の達成率が87%と、定着度が高い。 ▲「地理的環境と人々の生活」領域の達成率が他領域と比較して低く、課題が見られる。	○基礎的な内容は達成率が85%を超え、内容の定着がされている。 ▲「知識・技能」「思考・判断・表現」の定着に児童間で大きく差が開いている。	○「工業生産、情報社会、国土の自然」は正答率が80%を超え、定着している。 ▲記述式の問題の達成率が50%を下回り、児童間の理解度の差も非常に大きい。
算数	○教科全体の達成率が97.1%と、定着度が高い。 ▲「思考・判断・表現」において児童間で定着に差がある。図形領域に課題が見られる。	○「知識・技能」の達成率が90%に迫っており、定着が見られる。 ▲「データの活用」領域での達成率の差が80%もあり、定着に大きく差がある。	○基礎的な内容の正答率は80%を超え、基礎は定着している。 ▲単位量当たりの大きさの正答率が50%に届いていない。
理科	○教科全体の達成率が94.2%であり、内容が定着している。 ▲「生命・地球」領域にて理解度の差が52.9%あり、単元により定着度に大きな差がある。	○「知識・技能」の達成率が87%で、内容の定着が見込まれる。 ▲「物質・エネルギー」領域の達成率の差が80%もあり、定着に大きく差がある。	○生命・地球領域の正答率は80%に近く、内容の定着が見込める。 ▲物質・エネルギー領域の達成率は70%を下回り、児童間の理解度の差も大きい。
授業改善の方針			
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・読み手を意識させる課題設定を行い、目的に応じた多様な文章を書く経験を増やす。（新聞記事、報告文、説明文など）また、支援として「書く手順シート」や「文章構造のテンプレート・モデル文」を用意する。 ・書く活動を通して、文章の中で既習事項を正確に活用できるように促していく。 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学習問題を立て、単元の見通しがもてるように学習計画を立てていく。 ・学習した事象を比較・関連付けて説明する課題や、地図・グラフ・資料を根拠として用いる課題に取り組み、理由や根拠を示して説明する力の育成を図る。 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別少人数指導では、児童の実態に応じてグループを分け、個に応じた探究的な学習や基礎の定着に取り組む。 ・単位量当たりの大きさを生活場面に結びつけて考えさせる。（例：100g当たりの値段、速さの比較など） ・グラフ・表・式を組み合わせて説明する課題に取り組み、根拠を言葉で説明する機会を増やす。 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・安直に結論を導かず、実験を通して法則性や因果関係を考察する活動を重視する。 ・苦手な児童には、手順や記録方法を他者と考える時間を設け、単元末には学んだことを整理する時間を取り、思考を深め知識を整理する機会を確保する。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・曲との出会いや題材の導入で、音に対して意識が及ぶような問いかけや活動の工夫をする。範唱や範奏の映像や音源を使って、その楽曲の目指したい音を具体的に示していく。 ・歌う時の声の出し方、リコーダーの音色、打楽器の音量の調節等、楽曲に合った音色や音量に対する感覚を養う。 		
図工	<ul style="list-style-type: none"> ・作品完成までの見通しがもてるように学習計画を立て、製作段階ごとに途中までの作品を見合う時間を設定する。また、毎時間の振り返りを大切にし、製作が滞っている児童には個別に支援を行っていく。 ・材料や用具の適切な使い方を繰り返し指導し、自分や友達作品を大切に作る心を育てる。 		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用し、調理や裁縫での工夫点や応用的な技能を可視化して学びを深め、主体的に取り組む意欲を高める。 ・作品紹介や交流を通して互いのよさを認め合い、生活に生かそうとする意識を育てる。 ・用具の安全な使い方を繰り返し確認し、自分の生活や目的に合わせて技能を活用できるよう定着を図る。 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・持久力や筋力を意識した活動を取り入れ、体力を維持・向上する意識をもたせる。 ・運動量を確保するため、作戦タイムや振り返りはICTを活用して効率的に行い、運動に集中できる時間を増やす。 ・休み時間や家庭で運動に取り組むきっかけとなる児童発案のイベントを企画し、日常で体を動かす習慣作りを支援する。 		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・チャンツを活用し、リズムに乗って楽しく発音できるようにする。 ・英語を使った他者とのコミュニケーションに抵抗を感じる児童がいるため、担任による外国語活動でも短時間のコミュニケーション活動を取り入れ、英語で話す機会を増やす。 		